

幼児や日本語を学ぶ留学生のための教材開発の試行

加藤 真由美（岐阜女子大学 沖縄校）

1. はじめに

幼児や日本語を学ぶ留学生のための教材として、「ひらがなのかきかた」を試行的に作成した。各ひらがなの下のQRコードをタブレット端末かスマートフォンで読取ると、書き方動画を視聴できる。

ひらがなの書き方の動画教材はすでに多数教材化されているが、教授する対象者にあわせ、彼ら彼女らの身近なものや事柄を表すイラストと組み合わせて提示するなど、編集を伴う教材開発は、著作権がソフト制作会社にあるため、難しい。

しかし、動画データを自分で作成すれば、著作権を気にすることなく利用でき、安価でもある。

現在、タブレットPCの普及にともない、多様な機能やアプリが一般にも提供され、これまで高度な技術や高価なソフトが必要だった作業も、安価なアプリで簡単に行えるようになってきた。

そこで、今回 試行的に行なった教材開発の実際を次に示す。



図 教材「ひらがなのかきかた」

2. 教材「ひらがなのかきかた」の開発の実際

(1) 利用したもの、アプリケーション

「ひらがなのかきかた」の開発にあたり、iPadと以下①～⑤の5つを利用した。

- ① App Storeのアプリケーション「Sketches」（バージョン24.4）
- ② iPadの「画面収録」機能
- ③ App Storeのアプリケーション「iMovie」（バージョン2.2.9）
- ④ YouTubeのアカウント（事前に取得しておく）
- ⑤ QRコード作成ソフト「QRWindow」

- ①は、ドローイングアプリで、レイヤー操作が可能。今回、レイヤー（層）を利用してひらがなを書くマスを最下層のレイヤーに設定した。
- ②は、iPadの画面上での操作や操作音を録画できる機能。iPad/iPhoneのiOS11からは標準機能。
- ③は、録画した動画の編集アプリ。今回録画した動画の最後を切り取り、再生時間を調整した。
- ④は、録画した動画をYouTubeに限定公開としてアップロードする。
- ⑤は、YouTubeで限定公開した動画のURLからQRコードを作成する。

(2) 収集した4つのデータ

- ① ひらがなの書き方の動画
- ② 書き終えたひらがなの静止画
- ③ ①をYouTubeへ限定公開した際に取得できるURL
- ④ ③のURLのQRコード

(3) データ収集の主な手順（例：「あ」）

- ① iPad のアプリケーション「Sketches」を立ち上げる。
- ② iPad の画面収録機能を表示し、録画を開始する。
- ③ Sketches の画面に「あ」を書く。
- ④ 画面収録機能を表示し、録画を停止する。
— これで書き方動画データを収集。
- ⑤ 収録動画を再生し、文字を書き終えた時点で一時停止する。
- ⑥ 一時停止の状態のままスクリーンショットし、「あ」の静止画を保存する。
— 次に、動画データを YouTube にアップロードする。
- ⑦ YouTube にログインし、動画データを限定公開でアップロードをする。
- ⑧ 共有可能なリンク (URL) を取得する。
- ⑨ QR コード作成ソフト「QRWindow」に共有可能なリンク (URL) を入力し、QR コードを作成する。
— これで YouTube へのアップロードと QR コード作成は終了。



図 教材「あ」

3. 教材「ひらがなのかきかた」の活用についての考察

(1) 日本語教育と ICT

日本政府は 2023 年までに 1 人 1 台端末を実現するための経済対策を決定している。これは、ICT を活用した学習活動の充実を実現するものでもある。ICT の波は学校教育だけでなく、日本語教育にも押し寄せている。授業者は、学習者に合わせた教材作りができるよう、自分が利用しやすい教材やアプリを探し、必要な際にいつでも手軽に作成できるものを備えることが大切である。

(2) 日本語教育の現状と書き方動画教材の活用

次に、日本語学校と学校内の日本語教室の現状について、その一端を挙げる。

・**海外から日本への留学時の条件** 日本語能力試験レベル N5（基本的な日本語をある程度理解できる〔ひらがな・カタカナの読み書きを含む〕）が条件になっていることが多い。

・**国内の日本語学校の現状** 限られた授業時間内で、ひらがな・カタカナ・漢字の書き方を練習または復習する時間を十分に設けることはむずかしい。

・**沖縄県内の小学校・中学校の日本語教室と日本語指導員** 県内 9 市町村全 17 校の公立学校* に日本語指導員 1 名ずつ県から加配されている（沖縄県教育委員会 令和 2 年 8 月聞き取り）。日本語教室内では、日本語指導員が学年も日本語能力も学習科目もさまざまな児童生徒を同時に教える場合もあり、多忙である。* 県の加配以外にも市町村が独自に加配している箇所もある。

各日本語教育の現場における書き方動画教材の活用は、留学生の母国での事前学習支援や、日本での留学生・日本の公立学校に通う日本語支援が必要な児童生徒の自主学習の支援につながる。

(3) 今後の課題と展望

今後は以下の①～④を課題とし、さらに教材化を進め、可能であれば、多様な現場で実践と評価・改善を試みたい。

- ① 日本語学校や学校の日本語教室などに聞き取りを行い、文字習得のための書き方動画ソフトなどの利用状況やその効果、活用のしやすさについて明らかにする。
- ② ひらがなに続き、カタカナ、初級漢字の教材を作成する。
- ③ ②に加え、書く際の留意点を動画や静止画に書き入れた教材も作成する（右図参照）。
- ④ 教材のデータベース化を行い、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 パブリック・ライセンス [CC0] で提供する。

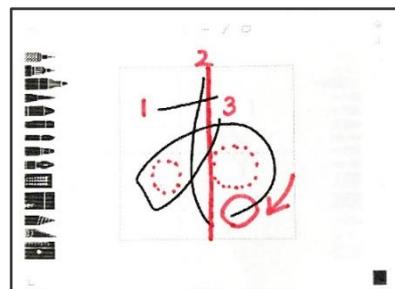


図 書く際の留意点 例：「あ」